



5月号 (No.2)

2022年4月28日

帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

2022年度のさらなる取り組み

帝京大学小学校 校長 石井 卓之

今年度の子どもたちの教育活動をさらに豊かにするために、4月はいろいろな人と積極的に会って話をし、「これかからの教育を変えるために、一緒に何かをしませんか。」と提案をしています。

ベンチャー企業を立ち上げている若手の実業家たちは、特に積極的です。その中の一つのグループと組んで、大学生に行っているキャリア教育プログラムの小学生版をつくってみようという話になりました。単年度では無理ですが、始められるところから挑戦していきます。まずは6年生の1学期に、ボードゲームを使いながら導入場面を実施していきます。同時に、多様な職種の方にゲストティーチャーとして実際に話をしてもらったり、zoom等で登場してもらったりして、子どもたちのキャリア観のイメージを広げる活動も実施していきます。特に、6年生が将来つきたい職業や興味のある職業に関連する方もできる限り集めてみようと思います（経済産業省のエドテック事業に採択されているプログラムも活用していくつもりです）。保護者の皆様のお仕事と一致することがあれば、その節にはご協力をお願いできれば幸いです。

先日は、大学生が立ち上げているキャリア教育サークルのメンバーとzoomで打合せをしました。（この大学にはキャリア教育を推進している教授がおり、私も注視していました。学生の一人はその教授のゼミ生でした。）話の中で、大学生という小学生に近い存在だからこそできることをしたい、自分たちはキャリア教育というものをこれまでの学校教育で学ばずに来てしまったのでそこを改善したいという強い気持ちがあることが分かりました。しかし一方、現在考えているプログラム内容は本校の子どもたちにしては稚拙で実態に合っていないと感じました。そこで、本校に来校して実態を確認した上でプログラムを再考することを勧めました。

若手の実業家たちや学生に共通するのは、教育の現状を改善して子どもたちが将来に希望をもち、なりたい自分になれる手助けをしたいという思いです。ふと、以前NHKの番組に出演していたZ世代の若者たちが、「お金を儲けて贅沢な暮らしをするのではなく、地球環境を保全して次の世代に繋げる活動をしたい。そのために社会貢献として新たな活動を立ち上げていきたい。」と話していたことを思い出しました。

昨年度、4年生がソニー・ミュージックエンタテインメントのtoioを使って作曲プログラムの授業を行いました。本年度はtoioの他にKOOVを使った授業連携を進められないか、検討を始めています。同様に、昨年度6年生で実施したセガとのプログラミング+eSports、12社の協力のもと全校で実施する体験型のキャリアパスポートデーも引き続き実施していきます。

3年生以上に導入したiPadの使い方については、「〇〇をしてはいけない」という禁止型ではなく、使いながら必要なルールを定める「デジタルシチズンシップ教育」の観点に基づいて進めてきました。本年度、各学年に共通する事項は学校のルールとして統一して子どもたちに示しました。併せて、情報教育に関しては専門の企業に委託して各学年や保護者向けに実施していきます。特に本年度は、この企業が子ども用に開発したタイピングソフト「らっこたん」を使い、四字熟語や学習用語を覚えながらタイピングを進め全国の学校の子どもたちとランキングを競うという実証研究にも参加していきます。

学校が単体で教育を進める時代は終わったと考えています。昨年度5年生で実施した帝京大学の留学生との交流は、身に付けた英語がどう実践で生かせるのか、留学生を校内案内することで検証する体験型の授業でした。今年はコロナの状況を踏まえながら、できれば年間を通して実施していきたいと考えています。

本校が元多摩市の公立学校であった縁から給食が実施されていますが、次年度は多摩市のハヶ岳にある施設を活用し、3年・4年のセカンドスクールを今までにない縦割りを取り入れた自然体験型にしようと考えて動いています。企業、大学、行政などをフル活用して、子どもの教育の幅を広げるとともに質の向上を図っていきます。